

# 週刊えっと

'88 合冊版



釜ヶ崎キリスト教協会

# 週刊えとう

1988.1.20発行  
キリスト教協友会  
越冬小委員会 641-7183

## 協友会夜まわりはじまる

	参加者	野宿者総数
1/11月	22	255
14木	42	318
15金	32	302
16土	107	294

## 仕事と野宿……

昨年12月25日からはじまった労働者中心の越冬闘争は、去る1月10日で終わりました。先日、パトロールについてのまとめの会をしました。野宿する労働者の実態について話し合いました。結論の一つは、仕事があると、野宿を余儀なくさせられている労働者の数は八ると言うことです。今年度は、統計的にみても15%ほど減っているのです。一般に、日雇労働者は急げ者で、その結果、外で寝ているように思われています。でも、仕事があると野宿が入ることは、それが単なる人々の思いにみであることを証明しました。

それだけに、いま野宿をいられている労働者は、働きたくても働けない人々です。

この点を頭に入れて、1月11日から2月末まで越冬の活動を続けたいと思っています。

問題は、同情心や（やってあげる心）だけでは解決しないのです。どうすることが、ほんとに人を人として大切にすることなのか。夜ま

りをしながら考えていきたいものです。

## 一回目の越冬夜廻り

を終えて(木よ)

越冬実のパトロールが終了し、協友会の越冬に引きついでの一週目。

私達は通年つづ

けてきた木曜夜廻りの延長のつもりで越冬夜まわりをしようと考えていましたし、学習会も学校の授業の様ではない。言葉のキャッチボールのようなものをイメージしていました。

学習会を始めて最初は30人ほどの数がじわじわ増えはじめ、しまいには50人を越え‘旅路’の一室はつめこみ学級と化してしまいました。参加者の一人がいうには「いつもの旅路と雰囲気は少しちがう」との事。気軽に話さずらいムードが充満していたのかもかもしれません。

私たちとしては、「越冬だ」と肩に力を入れて夜廻りするのではなく、身近な問題を気軽に話し合い、夜廻りをしたいと思っていたのですが……まだまだ一回目、少しづつ肩の力を抜きながら続けていきましょう。

## 喜望の家<sup>ちん</sup>の夜廻りから

喜望の家では、夜廻りをはじめ、昨年以上の厳しい現状を再確認することができました。



まず、野宿しておられる方の中に、治療や、入院を必要としている方、高齢の方がとても多くなっているように思えます。また、夜廻りをしている者に対して、「こんな所ではないで東南アジアへでも行ってやれ。」「こゝ（野宿している人）をあっちへ持っていけ。」等、地域の人や、言うことすらあり、このような人達の無理解、無関心を強く感じました。

なお、春望の家では、夜廻りの前、10時から学習会を開きます。是非参加して下さい。

- 1月15日 パトロールのオリエンテーション
- 22日 ティ・パトロールを通して
- 29日 ことばの説明I
- 2月5日 ことばの説明II
- 12日 アルコールについてI
- 19日 アルコールについてII
- 26日 全体のまとめ



## こどもの里第一回目の夜まわり

なんと107名もの参加者にびっくり。大人が多過ぎる……都合で学習会だけ参加の人を除いても90数名の大人と子供が夜廻りをした。それはそれで置いて……夜回

り以前のお願いをしておきたいと思います。

9時からの学習に何故遅れてくるのですか？ あなた方がホールに入ってこられる度に皆の視線は一瞬、あなた方に集中し、せっかくの学習会がざわつき（特に子供主体の夜回りのグループだから）集中して話が聞けなくなります。みんなの迷惑を考えて下さい。遅れてしまったら夜廻りが始まるまで外で待つ位の覚悟を来て下さい。集合時間は8時45分です。8時55分より、テーマソング「一人の手」を全員で歌って学習会の始まりとしますのでもくれぐれもお忘れなく……それと、特別な事情がない限り一回だけの参加だなんてことは冗談でもやめて下さい。迷惑千万です。なるべく続けて学習会と夜廻りに参加して下さい。以上、二点をお願いしたいと思います。

土曜夜まわり学習会予定 1.16~2.27

- 16日 なぜ子どもたちも一緒に夜まわりをするの
- 23日 釜ヶ崎はいつ出来たの
- 30日 釜ヶ崎に来た炭鉱の人たち ①
- 6日 釜ヶ崎に来た炭鉱の人たち ②
- 13日 どうして、アジアの人たちが日本の畜場を働くの
- 20日 フィリピンで出会った子どもたちの生活
- 27日 こゝからどうするの -まとめ-



# 週刊えっとう

2/1988.1.27発行  
キリスト教協友会  
越冬小委員会 641-7183

	参加者	地区内	地区外	総数
1/8月	32	119	169	288
21木	40	107	214	323
22金	37	137	190	327
23土	76	94	179	273

## 第18回越冬実総括集会

その1

1月20日 7時～9時まで。西成市民館で  
今期越冬の総括集会がありました。各班(炊事、パトロール、医療、臨時宿泊、警備、労働)からの短かい報告と質疑。なお部落解放同盟奈良県連の青年部から、釜ヶ崎における部落差別発言に関する問題提起がありました。総括集会-その2-は、来る2月3日(木)7時から市民館でします。参加してください。

## 越冬中間報告集会

へのご案内

とき 2月7日(日) 2時～4時  
於 ふるさとの家 641-8273  
プログラム  
発題名古屋笹島で越冬と取り組んで  
世島診療所 山本 拓 氏  
夜まわり4クルーズからの報告  
ふるさとの家、旅路の里

喜望の家、こどもの里

話し合い、開会 村松 閉会 古高  
協友会の越冬も3週間目に入ります。  
4つのクルーズに分かれているので、それぞれの様子がわからないところもあります。2月7日は、4つのクルーズが集って意見を交換するとともに、名古屋でここ3年間、笹島の労働者の健康問題や越冬にかかわって来た山本拓さんから、お話を聞き、これからの越冬や協友会の活動について話し合いたいと思います。是非、お集りください。

## 月曜日の夜まわり

私達は12月28日の9時～10時、今迄の夜廻りを振り返り今後の夜廻りを一層有意義にするための会合をもちました。「今迄の9時出発はバタヤさんはまだ働いている人もいるし、商店街は店を開けており、寝にこられる方も少ない。」「あまり出発が遅くなると遠くから夜廻りに来る人が帰れない。」「廻る人の都合で時間を決めるべきでない。」「野宿の状況が一番よく掌握出来る時間にすべきだ。」「それなら深夜がよい。」「あまり遅いと皆が寝ているのではないか」等率直な意見が出ました。12時なら皆なが今夜の寝場所に落ち着くし、又病気の人や腹が空いている人はまだ寝られ

ずにいるのではないかと云ふことで意見がまとまりました。

◆ 月曜の夜廻りに新しい体験をするつもりで初めて参加しました。野宿している方が考えていたより若い方の多いのにおどろきました。

## よい国、素晴らしい国 とは一体何んなんだ

3つ。経済大国日本が向っている方向は決して良い方向ではないと思う。確かに物質的には恵まれ、世界中のありとあらゆるものが手に入る国ですが、本当にそれが豊かな"らし"でしょうか。日本人はいつも自分の利益しか求めず、隣人を助けようとしな。釜ヶ崎の問題にしても、非差別階級問題にしても、在日韓国人の問題にしても、外国人登録法問題にしても、いつも弱い立場の人々がぶみつけられる。困っている人がいたなら助け合うのは、極当然のことではないでしょうか。その当然のことができない日本人に対し、同じ日本人として林さより恐しさを感じます。情報があふれている社会と言われますが、真実の情報は流れない日本社会なんだと思います。(22日 金 参加者)



## 木曜日の夜まわり

今回の学習会のテーマは、天王寺博とこれに伴って行なわれた労働者排除についてである。昨年開催された天王寺博は様々な問題を含んでいたが、その中の一つが労働者排除であった。

天王寺の坂に住んでいる労働者の住居を「ゴミ」としてほかし、我々の抗議に対しては警察が前面に出て威圧してきた。天王寺博自体の味も「いのちいきいき」とはかけはなれた銭もうけ主義の売店がたち並び、2千円もの入場料を2度も払うしるものではなかった。

木曜夜まわりの中では何回かくり返してきた内容だったが、おさらいの意味で参加者全員で考えてみた。

実際に夜まわりに出ても「〇月〇日までに撤去せよ」という勧告書が何枚も見られ、労働者の排除が一層強まったようだ。(同時に我々の無力さも実感されたのだが)

今回は日曜の構造について学習していきたい。

## 里第2回目の夜回り

今回の学習会では、単年の釜ヶ崎の歴史について学習しました。1844年と1900年発行の地図と現在の地図を見ながら、どのようにして釜ヶ崎が意図的に人為的に造られていったのかを学びました。—当時の長町に住んでいた人達を周りの人間は「怠け者」の様に思い、住民、警察、行政、さらにとどめは天皇も一体となつての強制的追い出し作戦により

釜ヶ崎が造られた街として突然誕生したことを知りました——追い出された人達は生活を減茶々にさらけ非人間的な扱いを受けていたという事実は現在も「釜ヶ崎差別」・「クリーン作戦」等として脈々と受け継がれています。そして今度は逆に釜ヶ崎を追い出した野宿者は市内に拡散し結果的に日本橋や四天王寺等に戻されているという皮肉な歴史の現実を知りました——地図を見ながらいろんなことを考えたり知っていくと、ある意味を楽しくそして歴史のロマンみたいなものを感じました。さて今日の夜回りは極寒の中で行われました。おっちゃん達にかける子供の声にもとことなく力が込もっていたように思います。そうそう、夜回りのテーマソングができました。



次のページに歌詞があります。

土曜日も夜まわりに、ここのこともたちかがよう今宮中学校の先生3人が参加しました。しょうがいします。

◆ 1年ぶりです。去年は参加して釜ヶ崎の現実を知っていくひとつのきっかけになりました。

した。今年はこの問題にどうかかわり、自分の問題としてどうとくんでゆくか考えたいと思っています。学校現場で釜ヶ崎をどう教えてゆくのか、ということもこのことを通して考えてゆきたいですね。 29才男

◆ 去年の今頃、初めて参加しておよそ1年ぶりの夜まわり。今日は北まわりでしたが、行く前聞いた話よりもだいぶおっちゃんたちが少なく感じました。いま、自分は何をしなアカンか、何を知らうとせなアカンか、いろいろがんばらんとアカンなあと気合いがはいりました。 24才男

◆ 今日は、この冬一番の冷え込みのようで、まわっていても、アゴが冷えて、口がまわらなくなってきた。おっちゃんたちに声をかけていてもはっきり言えなくて、申し分けなかったかな? はじめて参加したのですが、本当におっちゃんらのつらさが身にしみてわかりました。行政の責任で何とかならないものなのか、憤りを感じます。自分自身のできることで、目いっぱいがんばってみたい。

(夜回りだけでなく、闘争活動や教育活動等)





# ① なんでよまわり

※ [ なんで 夜回りをするの  
 なんで おにぎりをわたすの  
 なんで みそしるをあげるの  
 なんで 青カンセなあかんの

おっちゃんは 人のいやがる  
 仕事ばかり してきたんだ  
 なんで そんなおっちゃんが  
 外で寝るとあかんのやろう  
 僕らは おうちに帰ったら  
 お父さんや お母さんがいて  
 あたたかいふとんでぐすり  
 夢みて ねむれる

# ② するの

※ (くり返し)

おっちゃんは 朝の4時から  
 仕事求めてセンターへ  
 昼間から飲んだくれてるのは  
 仕事にあぶれたからや

若い時にはバリバリと  
 働いてかせいできたけれど  
 年をとると仕事にもあつけん  
 外で寝るしかない

※ (くり返し)

# ③

※ (くり返し)

おっちゃんは何ももってない  
 なんでこんなに優しいの  
 僕らはそんなおっちゃんが  
 世界で一番好きさ

今の日本は ~~狂える~~ まちがえる  
 みんな変なカザリばかり  
 どうして本当のことを  
 見ようしないんだらう

※ (くり返し)

※ [ 少しさみしくて ちよっと悲しくて  
 とてお ちむぐるし

↓ (肝苦し)

※ 沖縄のことばで  
 「かわいそう」の  
 意味です。

# ④

※ (くり返し)

おっちゃんの幸せて何だ  
 夜回りなんかしなくても  
 いい社会にするには  
 みんなどうしたらいいんだらう

それは自分で考えて  
 そしてみんなで考えて  
 おっちゃんの幸せを夢みて  
 いっしょにがんばらう

※ (くり返し)

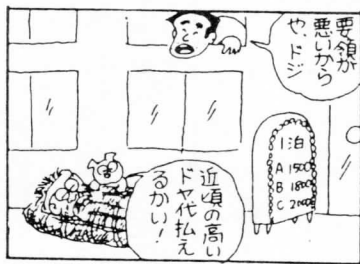
# ⑤

※ (くり返し)

僕らの幸せて何だ  
 みんな同じ人間だ  
 みんな同じ仲間だぞ  
 みんなの幸せさがよう

今の僕らにできるのは  
 夜回りすることしかないけど  
 心をこめておっちゃんに  
 お話したいな

※ (くり返し)



「NHK みんなのうた」より  
 「ワマのぬいぐるみ」  
 の替え歌です。土曜日は、イタリヤ、ベルギー、オランダ、カナダ、アメリカ、スペイン、韓国の人たちもいっしょに歌いました。

# ⑥

# 週刊えっと

3 1988.2.3 発行  
キリスト教協友会  
越冬小委員会 641-7183

	参加者	地区内	地区外	総数
1/25 月	30	118	189	307
28 木	44	116	182	298
29 金	34	130	184	314
30 土	78	104	163	267

## 釜ヶ崎のビルラッシュ

久しぶりに自転車で釜ヶ崎の周辺部を走ってみて、あらためておどろきました。

以前とあまり変化がないのです。

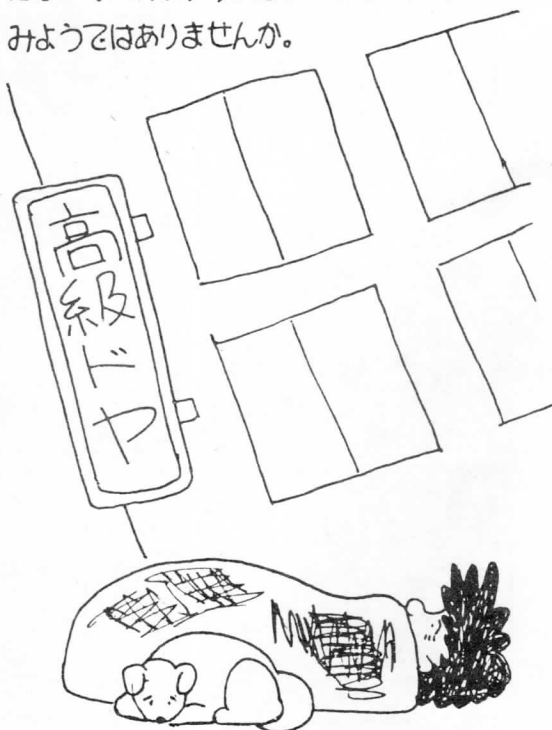
それに比較して、近頃の釜ヶ崎のビルラッシュは、大変なものです。とにかく、一週間もその近辺に足を運ばないと、まるで風景が変わっているのです。小さなドヤがあったはずなのに、フルドーザーが動いていたり、クレーンが動き、鉄骨の組み立てが行われているのです。

とにかく新しいドヤが次ぎ次ぎと建っています。それも5階建て、6階建てというものです。昔からの「やとや」なんていう看板のドヤは、なんとなくみすぼらしく見えます。しかも、新しいドヤは、10時すぎると「満員御礼」なのです。1500円が平均のドヤも満員なのです。

これだけみると、釜ヶ崎はなんて景気がいいんだろうと思います。野宿する労働者の姿も一頃より少なくなっています。

しかし、夜まわりで野宿を余儀なくされている労働者と話すとき、状況は以前にまして深刻です。釜ヶ崎の中でも、だんだん階層化が進んでいるのです。お金の無い人と無い人で、そして、一見、お金の無い人がめだたなくなっているのです。ますますおみに追いやられているのです。元気な労働者も野宿する労働者のことに無関心になって来ているのです。

ビルラッシュの続く釜ヶ崎は、向かひとつのまがり角に来ているように思います。それはよい方へのまがり角なのかどうか、考えてみようではありませんか。





### 土よう夜回り・その③

今回の学習会のテーマは「釜ヶ崎に来た炭鉱の人達—筑豊の人達の生活・戦後①」ということで、炭鉱と釜ヶ崎がどのようにつながっているのかを学習しました。まず、模造紙大に書かれた日本地図を見ながら全国の寄せ場(山谷・寿・笹島・釜ヶ崎・福岡)の位置と各々の労働者の人数を知りました。なんで釜ヶ崎には25000人ものおっちゃんがあるんやろ……ということと1960年の筑豊の子もたちと炭鉱のスライドを見ました。かつては「黒いダイヤ」とも呼ばれ、ちょっとぜいたくな暮らしがしたければ炭鉱労働者になればできた……とまで言われていた石炭産業も、石油に主役の座を奪われ始めた1960年頃より落ち込みの一途をたどり、と同時に仕事がなくなった炭鉱労働者は生活に困り、生活保護を受けるか、或は釜ヶ崎へ行けば仕事がある、ということと、家族を残して釜へ出稼ぎに出ていきました。そしてその背後に子供達がいた……ということも知りました。(その子供達は釜の子に似てるなあと思いました。)

次回は、戦後②ということと、版画の絵話「せんぶりせんじが笑った」を通して学習します。



### 木曜夜まわり

今回の学習会のテーマは「日雇構造と寄せ屋さん」という事で、釜ヶ崎のABCと言える日雇の仕組みについて、又、土木や建築の内容についてみんな考えてみた。

「初島(尼ヶ崎)の武山建設に行つて、そこからOX工業のハルメットをかぶらされ……」釜ヶ崎の労働者は、人夫出し、手配師に仲介され、第三次・第四次の下うけ業者の元で働らかされる、といった教科書的知識が去年からずっと土方をしているO君によって語られた。(彼の体験を通じてなので教科書的ではなく体験的知識かな。)

寄せ屋の事では、夜まわりを通して知り会ったバタヤさんの話を中心に、一時期リヤカーを引いていたというNさんの言葉を交えて話しあわれた。

「大阪にはどれくらいの寄せ屋がある」

「ダンボールとアルミ缶の値段は」

「リヤカーを借りるのに金かかるの」

「結局、たくさんかせぐのは若い人らしい」

「それでは年をとったバタヤさんはどうなるの」現在、多くの人がリヤカーを引いているけど、比較的若い人がダンボールを根こぎもって行ってしまえば、年をとった人は少しか集められないという現実がある。日本橋方面に向かも行っている参加者は、寝ているバタヤさんの口からこれらの事が知らされているようだ。

# 参加者の声

- ◆ アオカン者が思ったより少なかったが、仕事が多く出ているせいであろう。高齢者が多いが、釜ヶ崎に来て間もない、いわゆる新入りらしいひとたちの多いのがひどく気になった。市更相も医療センターも知らないのである。なお私の感じたことであるが、現場の仕事中に足手まといになるものが多いという非難を聞くが、土木関係の仕事に不慣れなひとたちがかなり入ってきたことがうかがわれて、このような人たちは釜ヶ崎の生活になかなかなじめないのではあるまいか。このひとたちへ温い手をさしのべることこそ？の急務であると痛感する。
- ◆ 正直な気持ちをかくと、僕は今何をしようかと思いつきながら道を歩いてました。一週間に一度だけやって来て、スラスタと歩きまわって、なんとなくいいことやってるような気になって帰っていく自分がとてもいやです。毛布やみそ汁やカイロをなんだかおしやりおしつけてるような気がする時もあります。きっとそんなことはないのでしょう。きっと夜回りは大切ですが、でも今はなんだか考えがまとまりません。
- ◆ 夜間パトロールをしていて、つくづくデイクパトロールの大切さを感じます。痛み、苦しみを持ったおじさんが、勇気をふりしぼって、やっとの思いで病院への道を進む時、それはデイクパトに関わる人達とのふれ

あいでもあるのでしょうか。私自身、昼間、釜ヶ崎へ来る事が出来ず、夜間パトロールにしか参加できませんが、デイクパトでおじさん達とのコミュニケーションをとることの出来る参加者が増える事を祈りたいと思います。主よ、どうか私達をあなたの手足として働かせて下さい。主よ、どうかおじさん達を見守って下さい。主よ、どうか私達の祈りを聞き入れて下さい。私達の主、イエズス・キリストによって、アーメン

- ◆ この釜ヶ崎という町の現状……労働者の人達が道にねているという事実……今年で2年目のパトロールですがやはり考えてまいります。何が原因なんでしょうね。ヒールはいいんでしょうね。今、毛布配ったりみそ汁配ったり、この行為自体に満足してたら何も生み出せないと思います。以上



(20才)

◆ なんやかやと、かかわって、おっちゃん  
と子どもとのかかわりを見ると、その前  
に自分の問題にでききれないのに（自分の  
事）子どもといっしょにまわると言う事は、  
非常な危険（いろんな）をともなうと言う  
事を痛いほど感じる。どういふ事かという  
説明はなかなかあつかいが、人を人とし  
て、と言うところだけではやってられない  
ところがたぶんにあつて、かたやアオカン  
かたや着ぶくぬ、と言う状況を子どもがそ  
のまま受けつぐわけ。おっちゃんといっ  
しょにアオカンするわけでもない。その状  
況の差を何とかおたがいに克服したいと思  
う。

◆ 今日は15人で回りました。子供は5人を  
した。センターの西側で寝ていた人は、火  
傷で足をやらかしているみたいで救急車を呼  
びました。職員の態度にはあんなかわらざる  
かつくものを覚えます。ふとちきながら思  
ったんですが、回るだけの夜回りから脱却  
するためにはやはり労働者の方も“しても  
らう”といった受け身の形から自らが現状  
を打開するといった主体性を確立してい  
なければならぬ。そのための労働者同志  
の団結が必要だと思います。（23才）

◆ ぼくは、3年生のころぼくも天王寺公園  
でいました。あの、天王寺博でかわったな  
と思う。公園でいたらテントでもはれるけ  
どはれない。このごろはダンボールも下が  
って安い。だからぼくがいたときよりもし

んといと思う。今日はとちゅうで雨がふっ  
てきてみんながあわてていた。でもみんな  
がんばって、みんなおにぎりをもらってく  
れて、「ありがとう」といってくれた。ほ  
くも「おやすみ」といって帰った。（小6）

◆ きょうは、日本橋にいきました。そして、  
さいしょに、おったおっちゃんに、みそし  
るをあげたら、ありがとう、いいました。  
そして、おっちゃんに、みそしるあげるわ、  
といったら、さいしょにありがとうとい  
いました。そして、そのおっちゃんが1000円  
もあげるわ、といいました。こどものため  
につかってください、といいました。そし  
て、ありがとうといいました。（小4男）



# 週刊えっと

4/1988.2.10発行  
キリスト教協友会  
越冬小委員会 64-7183

	参加者	地区内	地区外	総数
2/1月	31	85	220	305
4木		99	205	304
5金	40	156	230	386
6土	71	89	209	298

## 2月1日月曜夜廻り

今夜のパトロールについて、ことのほか寒さがじっとりとときびしい。先週の月曜日に私達パトロール地区・南廻りで2人の方が朝方凍死されていた事を聞いてショックであった。今夜はクルーズのメンバーが念を入れて廻る事にして2.3人が分担して回ったが、野宿の人がことのほか少い。そのかわり、先日の刺殺事件の関係からパトロールカーが教台、要所におり、パトロール警官が多かった。犯罪を取締るためには熱心であるのかどうかは知らないが、凍死者については無関心であるのが腹が立つ。西成警察署の前で顔をなくらしノギにあい、ふるふるふるえて寝ている人もほったらかしであるのにはあきれかえる次第である。人間の命を大切にする事は行政においても責任がある事は当然であるのだから、警察署の前で野宿している人達くらいでも彼等は無関心でいられるのが不思議である。現在私達の教会でも人の命の大切さと差別の

問題についても、この体験をとうして人々に働きかけている最中である。わずかな力であるが、この体験が一人でも多くの人に参加の気持ちになってもらう事を祈ります。



## 木曜夜まわり

今回の学習会のテーマは「寄せ場から外登法」という事で阿倍野教会の神父を中心に学習した。外国人登録法の差別性一指紋押まつ・常時携帯と警察の露骨な圧力など一にはいつも怒りを抱いているつもりだけど、ほんまに自分たちの問題として考えているかといえば、少し自信がない。他の人はどうかな？

いつも来ているSt.マリアも昨年指紋押まつを拒否しているが、彼女のいうには「日本人のすべてからも指紋をとる話がもち上がれば、今沈黙している人々も反対の声をあげるだろう。そうすれば私達だけががんばらな

くてもよくなる。ハハハ……」その通りですわ。

日本橋で野宿を余儀なくされている人達に対し警察は指紋をとり、ひどい時には顔写真までとった。釜ヶ崎地区内では何台もの最新のカメラが労働者の動向を監視している。在日外国人が常に外登証を持たされ監視されていると同じように。

「外登法は腹たつ事たくさんあるけど俺らの問題とは違う。」のではなく釜ヶ崎の問題から非常に近い問題と思う。(近いというより含んでいるというべきかな)



#### 土よう夜回り その④

今回の学習会は前回に引き続き「釜ヶ崎に  
来た炭鉱の人達—筑豊の人達の生活、戦後②、  
というテーマで行われました。まず日本に於  
いて死者30人以上を出した炭鉱災害事例(1885  
~1985.5月)を見てその数字のすごさに改め  
てびっくりしました。なんと91年間に延べ  
8403名もの人達が炭鉱災害で亡くなってい  
る。(死者30人以下の事故も含めるとおそら  
く一万人近くの人々が亡くなっているだろうと  
思われる。これはだいたい4日に1人が亡く



まっているということになる) 1965年6月  
1日の三井山野鉱での災害の際、上野英信さ  
んが書かれた文章によれば、237人の犠牲者  
の約半数が下請けの組夫(日雇い)の人達で  
あり、支配者は彼らに無理強いし、しんどい  
ことをさせ、労働者としての権利を奮い非人  
間的に扱う事で炭鉱というものを成り立たせ  
ていた。とんとん遣族に引き取られてゆく棺  
を尻目に引き取り手のない棺が2つ、3つと  
横たわっていたという。一番しんどい仕事を  
してきた人が棺の引き取り手もなくこの世か



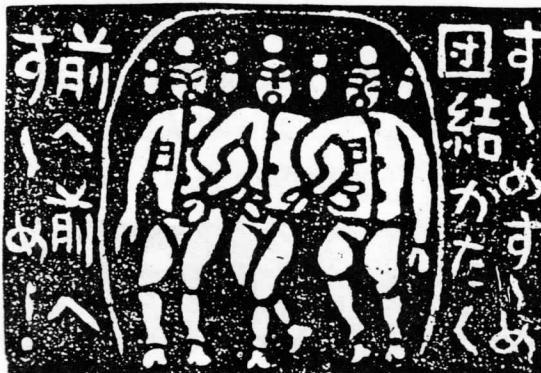
らになくなっていくという点で炭鉱と釜が  
つながっていることを知りました。次に、上野  
英信作版画の絵話「せんぶりせんじが笑った」



のスライドを見ました。ナレーターや登場人物のせりふは子供達がやってくれました。練



習する時間がなくてぶっつけ本番だったのに子供達の熱演ぶりにはびっくりしました。たいしたもんです。さて今日の夜回りは、きのうの春一番からうって変って寒くて風も強い中で行われました。おっちゃん達も自衛してぐっすり寝込んでいた人が多かったようです。



(「せんぷりせんじがゆらった」の版画より)

## する側とされる側の

### —2月7日からの報告— 克服

2月7日は、雪のちらつく寒い日曜日でした。2時から協友会の越冬中間報告集会がありました。

「ひとりのちいさな手……」

ふるさとの家に集った大人、子どもあわせて約50人が、開会礼拝担当の村松牧師にあわせて歌いました。

名古屋からの報告をしてくださったのは山本拓さん。名古屋で越冬を12年間取り組んできました。今年の名古屋越冬について問題点を紹介したのち、いま山本さんが考えている点を発題してくれました。「される側とする側」。これは、最近山本さんが読んだ「居住へのたたかい」(明石書店)に、アジアの人たちの主体的な闘いに教えられたことを紹介してくれました。「する側とされる側の関係をどう克服するのか」が、これから名古屋での課題と言われましたが、それはまた釜ヶ崎の課題でもあります。

5分の休けいのあとは、20人のこどもの里による土曜夜まわりのテーマソングの合唱でした。はじめて聞く人はじ〜んときたようです。

終わってから、「あのこどもたち、うちの教会に来て歌ってくれないかなー。大人の話よりいいですよー」という感想もきました。

月曜日、木曜日、金曜日、土曜日の各グループの夜まわりの取り組み報告が各10分ずつありました。

コースの再検討、年間通じての夜まわりと医療相談との連携、アルコール症の人々に対するティケアとアルコール症を克服した人のパトロール参加、子どもたちが新しい釜ヶ崎の文化をつくることを求めて夜まわりをして



いることが報告されました。

これらの発題と報告をろまえて、討論にうつりました。討論はいささか低調でしたが、でも次の点がここからの課題として出されました。

- ① 越冬期、特に寒い日、夜まわりをどうするか
- ② 野宿している人の中には、若いカネ痛の人が沢山いる。市更相でも軽作業可ということで、はねられている
- ③ 労働の問題が、釜ヶ崎では基本である。話し合いが、大谷さんの司会で進められました。最後は、吉高牧師の閉会礼拝。イエスはどんな人々と食卓をしたかを、越冬活動の中で考えてゆきたいというおすびの言葉のあと、みんなで一緒に土曜夜まわりのテーマソングを歌いました。

## お知らせ

2月4日(日) P.M. 2:00~5:00

ミスターマリアの指紋押捺拒否を通して  
「外登法問題を考える集い」  
生野カトリック教会 757-1792

2月28日(日) P.M. 3:00~5:00

「在日韓国・朝鮮人の生活実態と諸問題」  
大阪カトリックセンター(北浜教会)

2月28日(日) P.M. 6:30~9:00

アジアからの出稼ぎ労働者を支える会  
学習会(8回目) たびじの里

「いのちいきいき」って

なーに! やっぱりにけた天王寺博  
ができました。釜ヶ崎の歴史や、こどもた  
ちの発言など、天王寺博になぜ反対したのか  
よくわかる内容です。一部500円



寒い日は、外に出るのが つらいけど  
外で寝るあかんおっちゃんらは もっと  
大変です。月、木、金、土の夜廻りの日  
以外もあんまり寒い日は 地区内だけ  
もあろうと思っています。